

作品名	まちうら探訪	作品番号	1/5
校名	名古屋大学		
氏名	村瀬 千瑛		

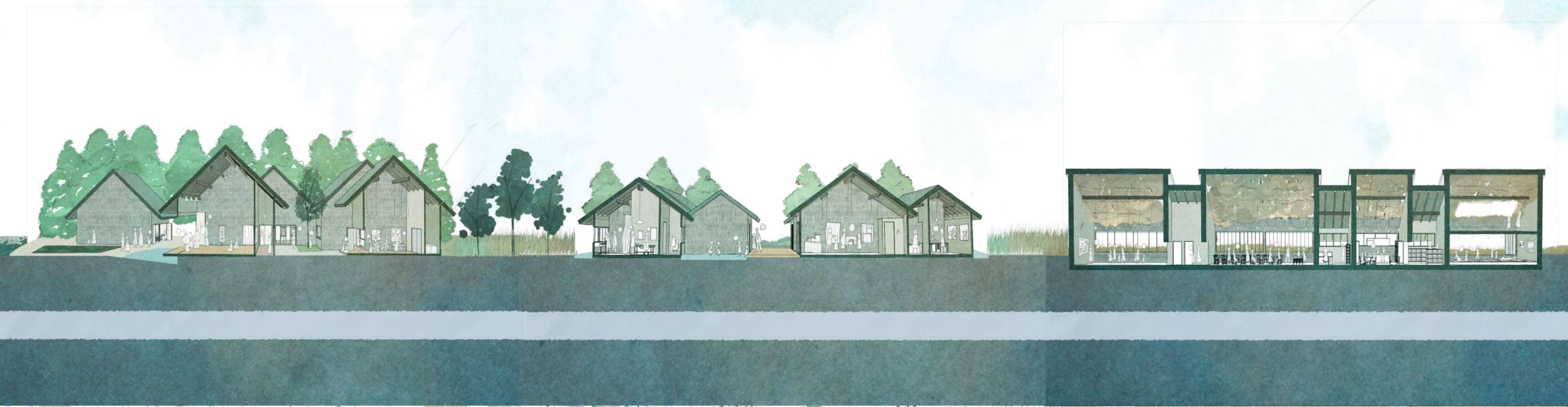
まちうら探訪

明治用水の流れに乗って 地域資源をめぐる旅に出る まちの”裏“を知ることによって まちの”面“を見つけ出す

まちうらには、その地域の歴史・文化が隠されており、裏たる所以が存在する

街の顔から排除された「まちうら」、バックグラウンドの「まちうら」、表側からは気づけなかった「まちうら」

そんなまちうらを歩けば、まち本来の面に出会うことができる



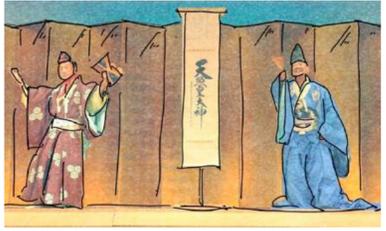
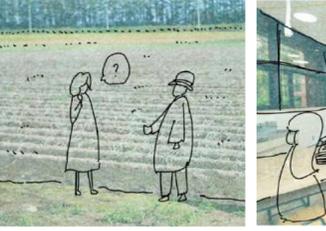
「美しい日本のむら景観百選」のまち、安城

作品名	まちうら探訪	作品番号	2/5
校名	名古屋大学		
氏名	村瀬 千瑛		

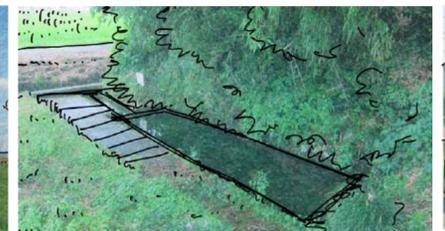
明治用水の主要流域である愛知県安城市は、JR安城駅前、JR三河安城駅前を中心とした市街地再開発事業を展開しており、かつて美しい日本のむら景観百選に愛知県で唯一選出されたそのまち景観は地域らしさを失っている。特に、安城の発展を支え、市民の生活とも身近な存在であった明治用水は、水質管理や転落防止のために、そのほとんどが暗渠となっている。その上部は現在、安城市と豊田市を結ぶ自転車道兼歩行車道として活用されているものの、通過利用がほとんどであり、立ち寄るための魅力に欠けている。明治用水には、川の見えないネットワークを通じて、さまざまな裏を持ち合わせており、そんなまちうら用水が一体となった計画へと再編することで、まちづくりとライフスタイルの可能性を考える。

PROCESS

ワークショップ&ヒアリング

 <p>三河万歳・安城芸妓 「伝統芸能、特に三河万歳と安城芸妓の後継者が減少している。練習場所もまちのはずれで、この文化を知っている人が少なくなっているのが悲しいなあ」</p>	 <p>祭りの準備 「個人の家で祭りの準備をするのは大変。でも、ほかにいい場所がない」</p>	 <p>懐かしの風景 「子供の頃に遊んだ場所はもうなくなってしまった。ものすごいスピードでなつかしの風景が減少してしまっていて寂しい気持ちだな」</p>	 <p>用水の可視化 「川の恵みを受けているのだから、もっと水が見える計画が必要だ」</p>	 <p>農業への勇気 「農業をやってみたくて、自分1人じゃ勇気が出ないし、難しそう」</p>	 <p>ものづくり 「ものづくりの安城だから、もっとFabスペースを作りたい！特にこどもたちに、ものづくりの楽しさを知ってほしい！」</p>	 <p>一休み 「昔はどこにでもあった小さな休憩場所が減ってしまったなあ。まちに一休みできる場所がほしい」</p>
---	---	---	--	--	--	---

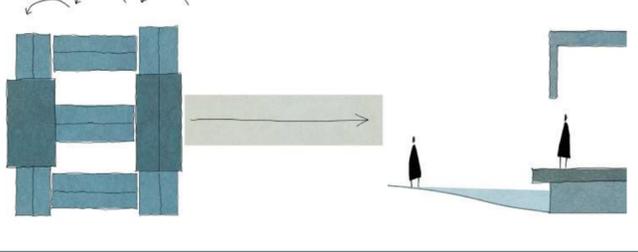
現地調査

 <p>平らな土地 高低差の少ない安城の街並みは、どこまでも田んぼが広がってゆくよう</p>	 <p>水生活 まちの裏には水を使う生活の名残が存在</p>	 <p>正面の向き 明治用水を裏とした新しいまちづくり、住宅づくりがされており、用水との関わりが断絶されている</p>	 <p>冬至軸 まちの至る場所に冬至に朝日が昇る方角を向いた計画がある</p>	 <p>木陰 小山の木陰がかつてのおしゃべり会場</p>
---	--	--	---	--

DIAGRAM

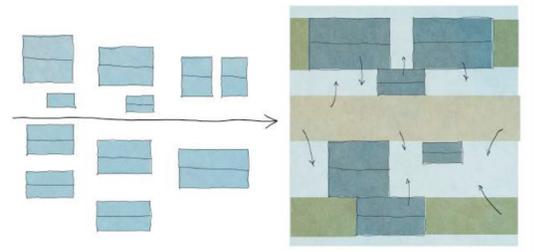
SITE 1 農住境界地

- ・目の前の明治川神社から軸をとる
- ・神社の形態構成を取り入れる
- ・みそぎの結果としての水（農住境界、ハレとケの境界）

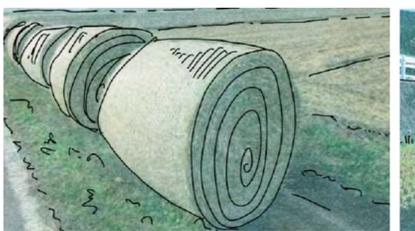
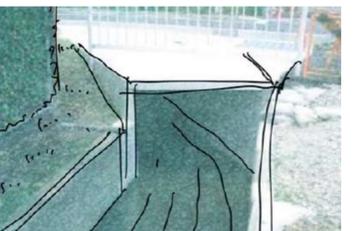


SITE 2 住宅地

- ・住宅地の造成から軸を取る
- ・住宅のスケールを用いる
- ・昔の生活を彷彿とさせる水路としての水活用
- ・今でも各住宅の周りを用水が通っていることでのデザイン



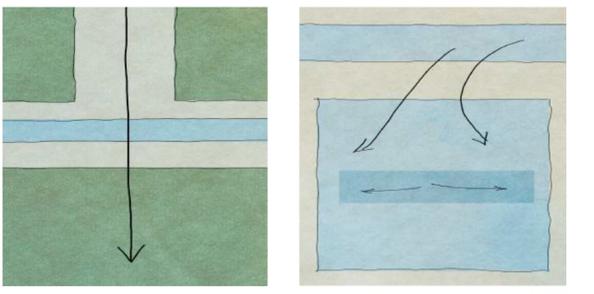
IDEA

 <p>切妻 安城に残る農小屋建築と明治川神社の屋根形態</p>	 <p>稲藁を構造に 廃棄されてしまう稲藁を、ライムと混ぜてコンクリート様に</p>	 <p>稲架掛けの建築 稲藁を干す光景は建築が建つみたい</p>	 <p>酒茶房の設置 まちうら巡りの拠点、日常の憩いの場</p>	 <p>水のランドスケープ まちから隠された明治用水の水を使ったランドスケープ</p>
---	--	---	--	---

SITE 3

農地

- ・農道から軸を取る
- ・流れ着いた用水が溜まる場所（田んぼ）をデザイン
- ・用水のはじまりとしての水



作品名	まちうら探訪	作品番号	3/5
校名	名古屋大学		
氏名	村瀬 千瑛		

スタジオ
 神社や地域で行う祭りの準備場所。
 準備期間外では、レクチャールームや工作室など多目的に利用できる。

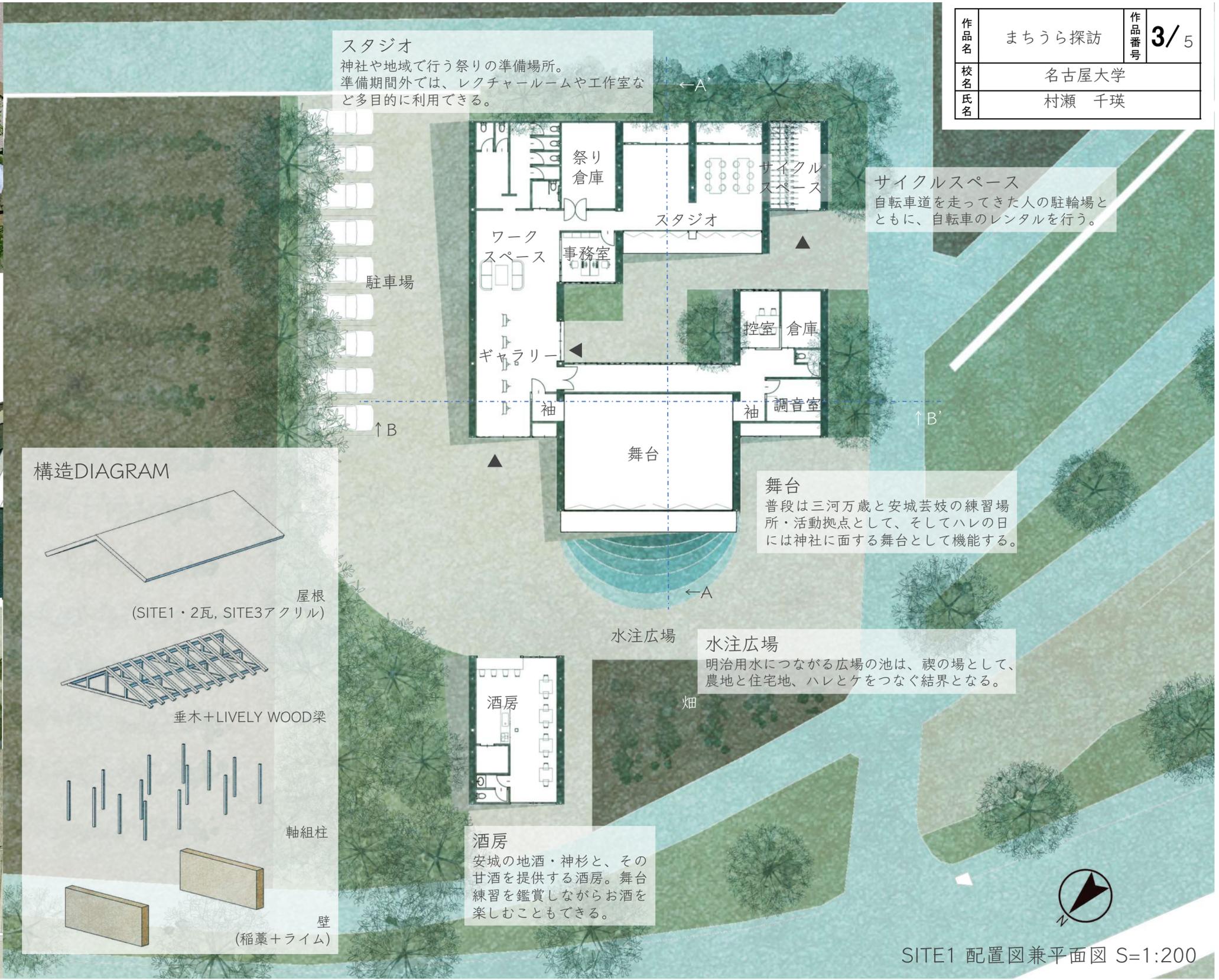
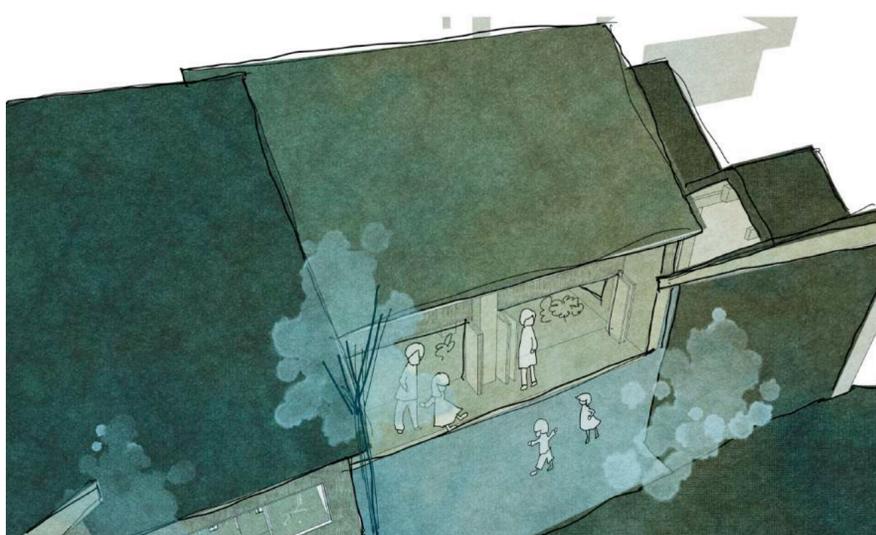
サイクルスペース
 自転車道を走ってきた人の駐輪場とともに、自転車のレンタルを行う。

舞台
 普段は三河万歳と安城芸妓の練習場所・活動拠点として、そしてハレの日には神社に面する舞台として機能する。

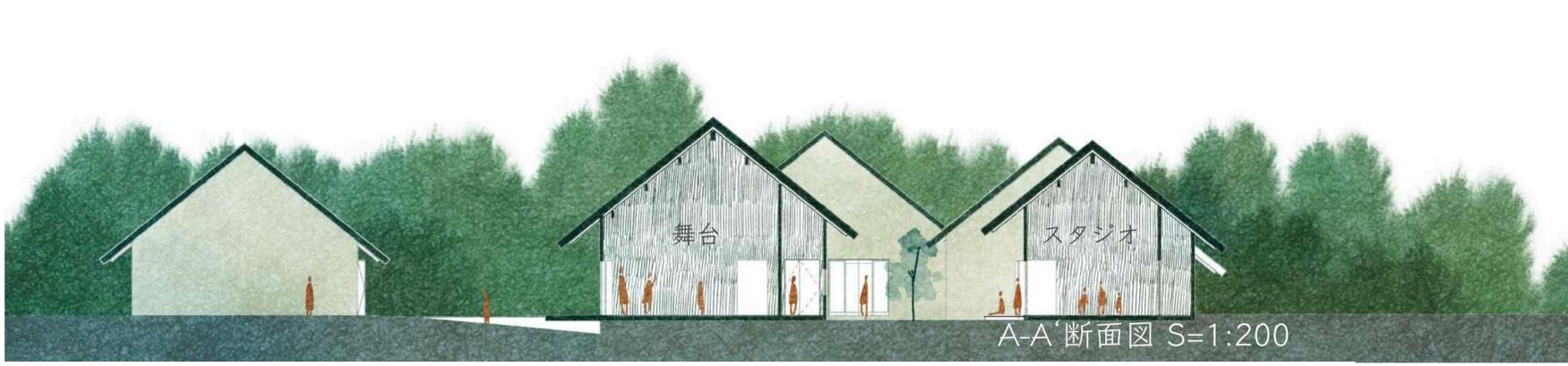
水注広場
 明治用水につながる広場の池は、禊の場として、農地と住宅地、ハレとケをつなぐ結界となる。

酒房
 安城の地酒・神杉と、その甘酒を提供する酒房。舞台練習を鑑賞しながらお酒を楽しむこともできる。

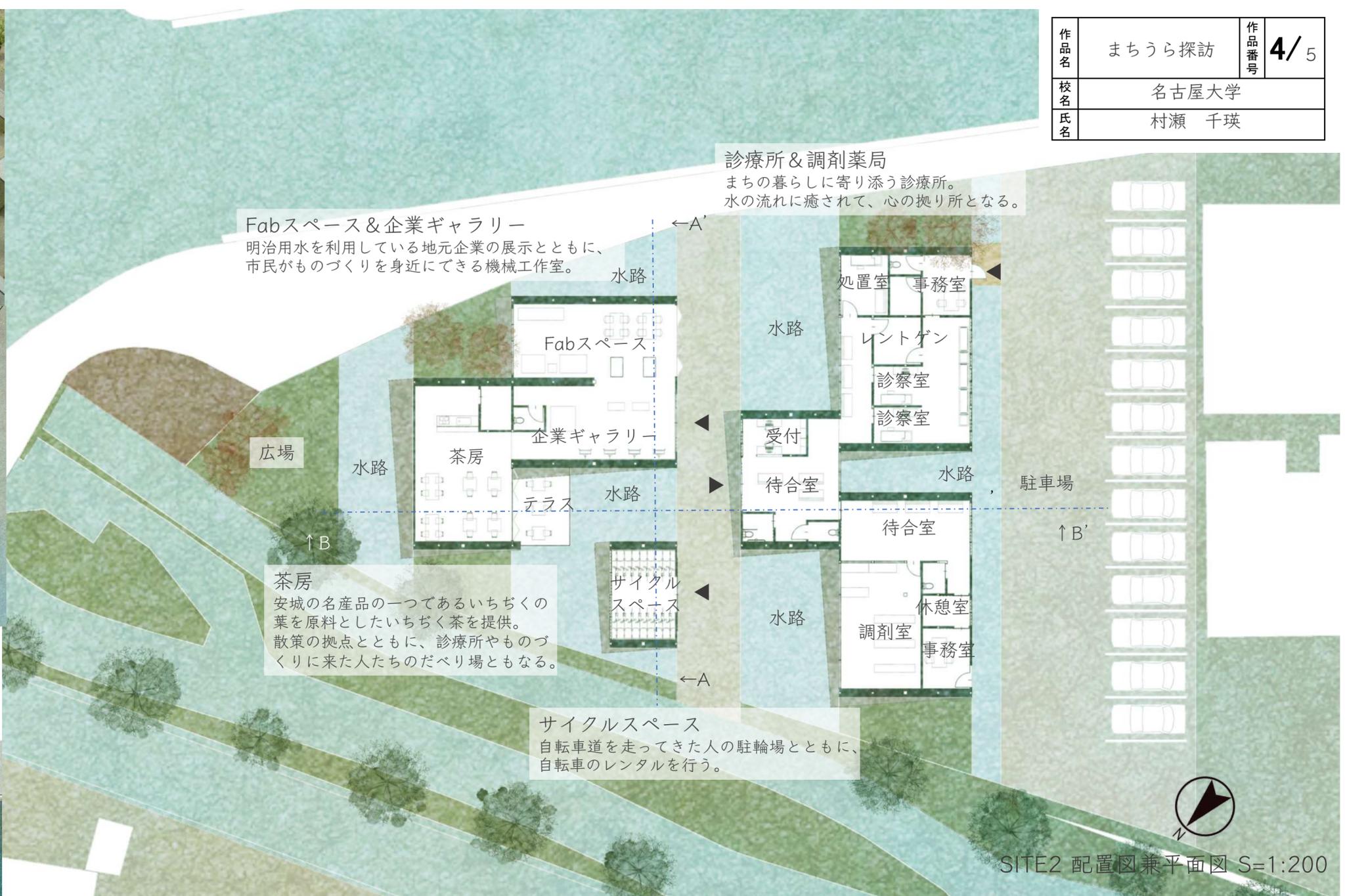
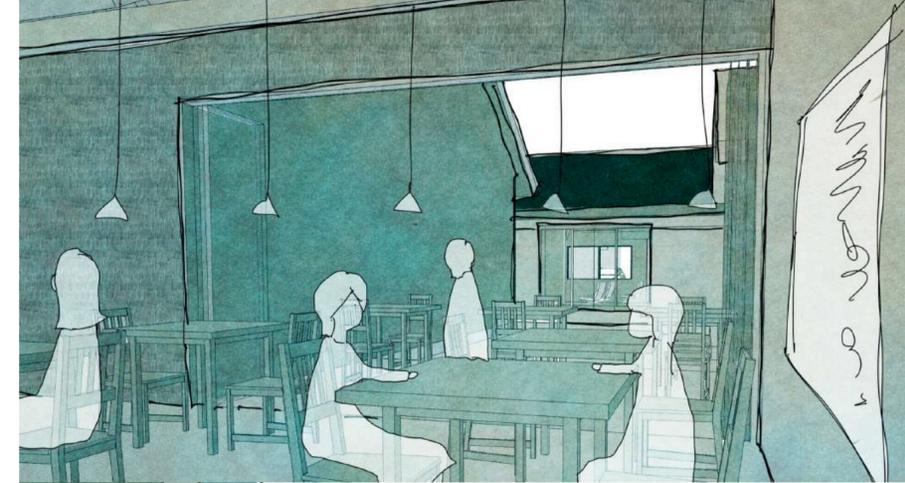
構造DIAGRAM



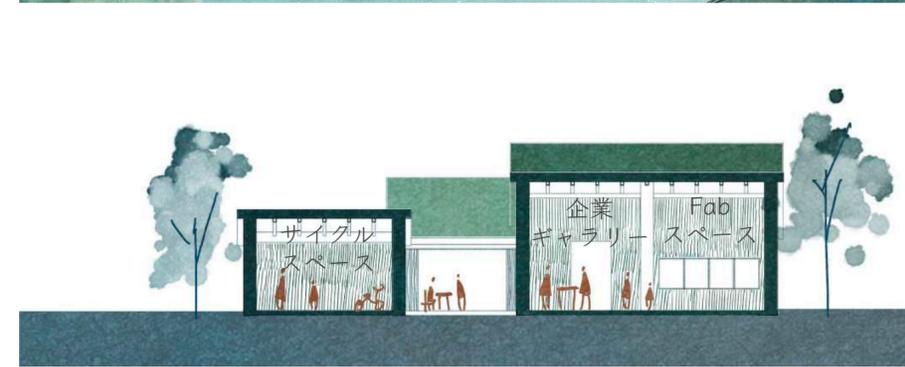
SITE1 配置図兼平面図 S=1:200



作品名	まちうら探訪	作品番号	4/5
校名	名古屋大学		
氏名	村瀬 千瑛		



SITE2 配置図兼平面図 S=1:200



A-A'断面図 S=1:200



B-B'断面図 S=1:200

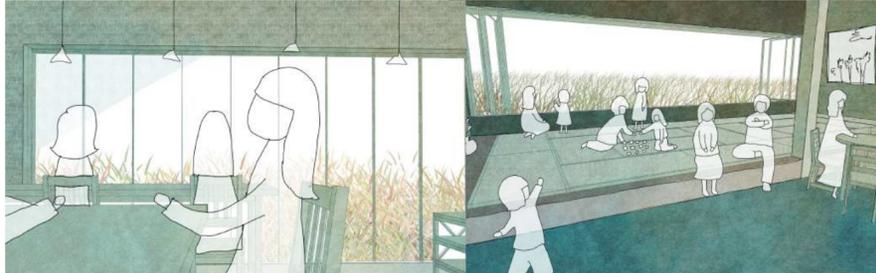


北東側立面図 S=1:200



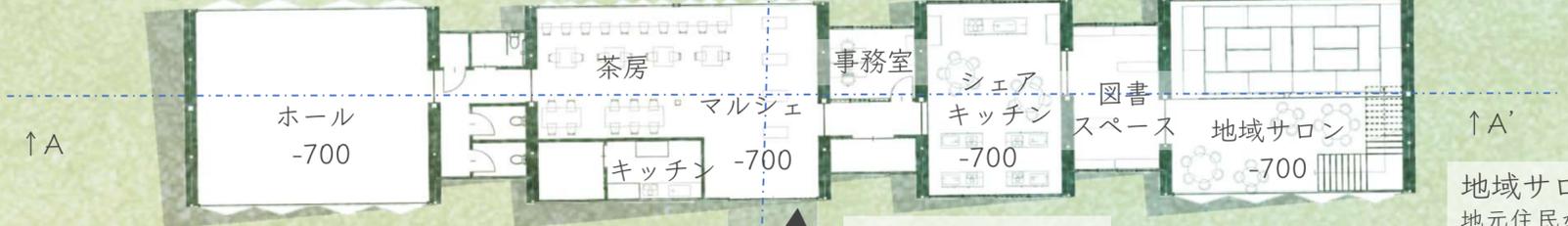
南東側立面図 S=1:200

作品名	まちうら探訪	作品番号	5/5
校名	名古屋大学		
氏名	村瀬 千瑛		



茶房
 建築の周りで栽培した稲を使用した玄米茶を提供。3つの酒茶房を巡ることで、安城の味を楽しむことができる。
 また、座った目線高さに稲穂が広がり、視覚効果によって雄大な安城の田んぼを堪能できる。

シェアキッチン
 みんなで使うキッチン。料理教室を開いたり、マルシェで買った野菜をそのまま調理してみたり。

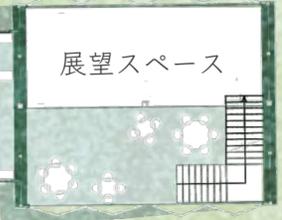


ホール
 稲の中のホールは稲架掛けによって程よく音を吸収。農業に関するレクチャーも開催する。

マルシェ
 地元農家さんが栽培した野菜やお米が並ぶ。

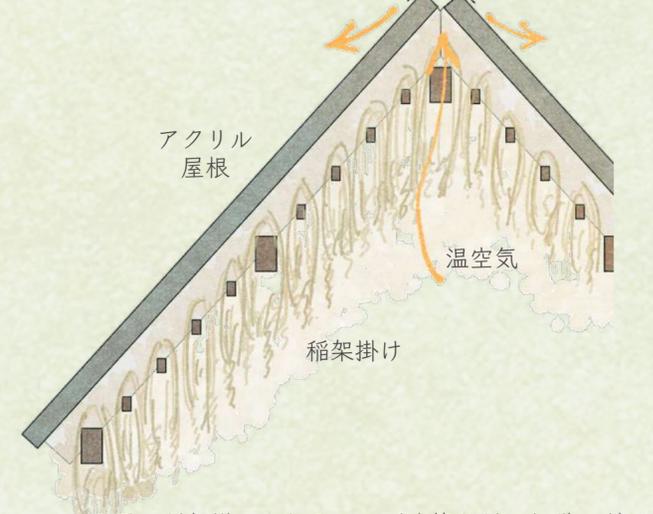
図書スペース
 農業に関する本を収蔵。

地域サロン
 地元住民が気軽に立ち寄れるサロン。畳の上で寝てもよし、おしゃべりもよし、会議を開いてもよし。



展望スペース
 一面に広がる稲の景色を1階とは違う視点で見られる。

SITE3 断面DIAGRAM

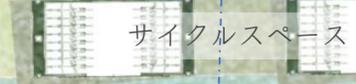


母屋に稲架掛けを行うことで建築を稲の収穫に利用
 稲藁が重なった厚い空気層による断熱・遮音効果

水田

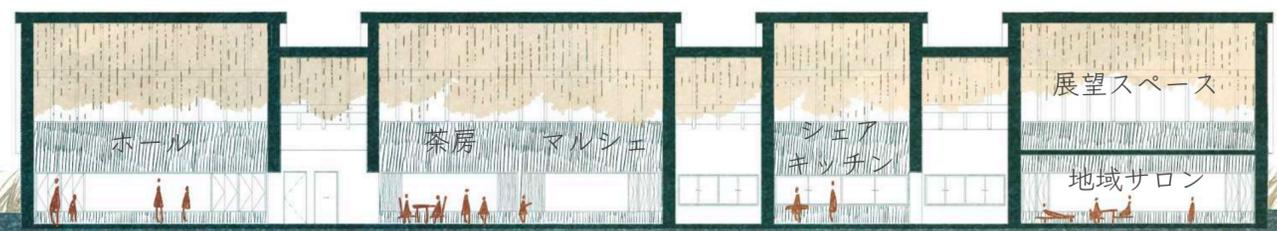
水田

サイクルスペース
 自転車道を走ってきた人の駐輪場とともに、自転車のレンタルを行う。

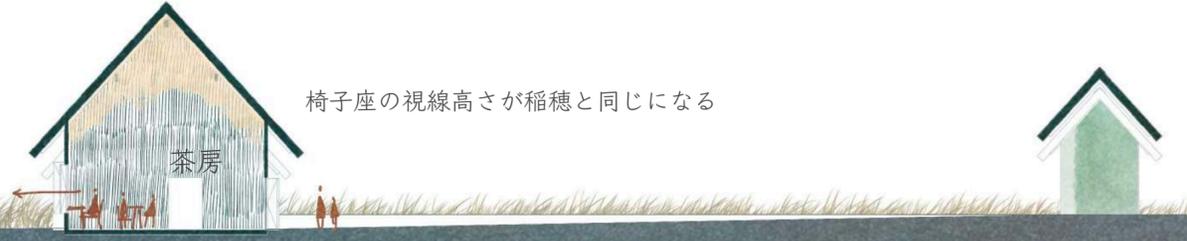


SITE3 2階展望室 S=1:200

SITE3 配置図兼平面図 S=1:200



A-A' 断面図 S=1:200



椅子座の視線高さが稲穂と同じになる

B-B' 断面図 S=1:200



北西側立面図 S=1:200



北東側立面図 S=1:200